



1909年(明治42)  
東京・百人町に建設した自宅兼撮影所(※)



日活創立時の記念写真(※)

### ■ Mパテー商会

香港での写真館に成功した庄吉ですが、独立運動への援助を理由に逮捕されそうになり、トクとともにシンガポールへ脱出します。ここで、たまたま入手していた映写機を使って映画興行をビジネスとして開始し、評判をあげます。この成功に手ごたえを感じた庄吉は、1905年(明治38) 長崎に戻って上映会を開催、これを手始めに東京でMパテー商会を立ち上げ、映画興行に本格的に参入します。

### ■ 発揮される商才

映画興行界では新参者であった庄吉は、半額クーポンなどの斬新なアイデアを次々と打ち出し、娯楽を求めている庶民の心理を巧みに刺激し、業績を伸ばしていきます。また経済的な成功だけでなく、映画の教育への利用についても活動を開始しています。

### ■ 日活の創設

映画興行で莫大な財産を手にした庄吉は、孫文への支援を行う一方、映画界の将来を危惧し、日本での大規模な映画製作を可能にするため、同業者の大同合併に向け奔走します。その甲斐あって、1912年(大正元) 現在の日活株式会社の前身である日本活動写真株式会社を設立。自ら取締役就任しますが、翌年、株式の暴落による経済的損失の責任を取る形で会社から身を引くこととなりました。